

吟道月報

NO.26

49.95

碩心会

現憲風を推進、五月二十九日、
筆ヶ岡八幡宮社務所にて発会式を
兼ね懇親会を持ちました。

亘子支部の歩み

台風一過して、めつぎり秋めいて参りました。当支部は本部から、名稱だけが変わったと言ったような支部ですので、これと言つて御紹介する事柄もありませんか（碩心会の歩みに大部分含まれていると思います）
一心生い立ちと経過などを簡単に御報告申し上げます
古い方は、皆杯御承知の通り、私達は従来碩心会本部故郷として、なぎと通り、なぎと全館にて根柢是迄先生の御指導を受けて居りました。

四十六年五月、本部から分離、亘子支部として独立致しました。と申しましても、会計及名稱が別になつたと云うだけで、内容は目新しいものではありません。当時、会員は三十一名、支部長に、竹石憲山さんへ

沼岡支部からも黒田さん（故人）始め、五、六人御参加下さいまして、大変盛会でした。

鈴木利治さんの名司会で陽気歌を起すのではないかと思われる程よく笑い、よく食べ、よく飲み、よくさわぎました。

他の支部と違つて当会員は住所が亘子有り、横浜あり鎌倉あり、葉山ありで、本部時代には何となく交流がなかつたのですが、この日を境として、大変親しみを増し和やかになつた感があります。

以来、六月及び十二月の懇親会は、亘子支部の恒例となり、その日は、先生ぞつちのけの無礼講で、大いにさわぎ、大いに楽しんでみます。

こんな話ばかりですと、亘子支部は遊ぶだけの会のようですので、お稽古の方にも一寸小けておきます。

よく遊び、よく学びの精神にのっとり、練習日は一
同大真面目で、熱心そのもの、練習日は、毎木旺日夜
根岸先生を主軸に、三井先生も御一しよに細かい所を
御指導下さるといった接配で、これに加えて御近所の
よしみで、松井芸洋先生も時折御立寄り、御覧下さる
ると言った、誠にせいたくな恵まれた故場です、

毎年の県大会、地区大会、市垣吟連発表会、文化祭
等、誰彼なく公平に、順次参加して吟道に励んで居る
次第であります、

支部結成後、やめる方もあり、入る方もありで、現
在二十三名、昨年、竹石氏が副会長になられたので、
その後を受けて竹村梅風さんが、支部長として、支部
をまとめて居られます、

国鉄逗子駅か一分と言った便利な場所ですので、
皆杯どうも、御立寄下さい、最後に、会員皆杯の御健
康と御精進をお祈りしてペンをおきます

(逗子支部 千葉香風記)

碩心会本部

◎九月一日秋季卓広審査会は、立派な成績を以って、終
了し、左記の昇任者がありました、

初段(21名)二段(18名)初任(46名)三段(20名内
特進一名)四段(18名)中任(14名)五段(26名)

六段(9名)奥任(10名)計一八二名

尚九月十二日(木)逗子故場に於て数名の方の追審査
を行います、

◎前記昇任者の許証料と雅号は、速かに、おてくも二
十日(金)までに支部母に取まとの総務までお届け下
さい、

◎九月二十九日の碩心会温習会に昼食のベントウ(二
五〇円)必要の向は支部毎に一括して二十三日中に総
務宛、代金を添えて、お申込み下さい、

◎九月二十二日(日)紫舟会の詩舞発表会が、一二時
〜十六時まで、図書館ホールで開かれます、近頃の

詩舞、劍舞の諸先生十八名が参加、賛助して下さいます。多数の御声援をお願いいたします。

会員の異動

退会々員

込 桜山支那 周藤倫泉

新々員

逗子支那 北沢ユキ子 逗子市又木4の21の17

逗子 千葉香風

会員の声

我が頑心会も三百を越える会員を擁する大ブロックになり、喜ばしい限りでございます。私が入会しました頃は、三十人ほどでしたので、お互いに顔もわかり、交流もあり、色々な会にも入れ替り立ち替り出吟しますので、会員同志の吟を固く我々に恵まれて居りました。

最近、あまりに大人数なので、その奥残念に思っておりますが、今月末に講習会が持たれ、久し振りに居りました。

に全会員の吟が拜聴出来ます事、大変嬉しく心待ちにして居ります。

又、放場間の交流も或る程度、計画的に行われたらと思えます。なかなか個人で、よその放場へ出向く勇気は出ませんので……

堀内 中村 愛風

夏の狂騒曲も、遠く雲の彼方に去って、梢の葉かげから、さわやかなそよ風が、庭の草むらから美しい虫の音が、いつのまにか秋を運んで参りました。

こんな頃、私はいつも十年前の私は……と思っております。葉山という土地柄、暑くてさわがしくて忙しい夏が過ぎると、急に心身共にガクンときて、感傷的になり、年々を考へ、孤独におちいり、まず、いいことは考へられませんでした。ところが、詩吟、詩舞をはじめました現在は、楽しい秋の行筆が色々待っていてくれて、そんなつまらない筆を考へているひまがありません。年もとうなしい持効薬として、こんなよい薬は、まずないと、つくづく

く、ありがたく思います。

私は、人にすくめられるままに、漠然とこの道に入りました。よく考えてみると、今の私にとって、詩吟・詩舞というものが、毎日の生活の上に、大変大きな比重を占めていることに気がつきます。子供も大きくなつて、そろそろ話題の種もつきた頃、主人につづいて、私も入会させていただきましたが、とかく無口がちの主人との向にも話題の材料ができたということも、二人にとつて大きな収穫でした。子供達からは、少々にくまれ口をさかれますが……、先日査定会の折にも大船の森田さん御夫婦が、仲よく娑婆歌を連吟なさいましたが、大変好感を持ったことは、皆さんも同じだと思います。又私達は、そろそろ世間でよくいう嫁姑というような問題にぶつかる年々を迎えているのですが、こういう家でも、この趣味を上手に利用したいと思つています。

何れともあれ、気兼ねなく、皆さん、歌えて、おど

れて……人生これができたら最高の俵せ、同好の志とは、ほんによいもの。私はいつも思うのですが、拙著先生・三井会長のお人柄がすなわち頑心念の性格であるように思います。両先生はじめ、皆さん、くれぐれも体に気をつけて、仲よく楽しく、この道に励もうではありませんか。

三井会長から、何か書いてほしい、と急にいわれ、ハタと困りまして、取りとめない記事で紙面をうめた事をお許し下さい。

九月六日 記

会員の声の欄は、会員の声なき声の意味もあります。匿名（TS字等）でも結構です。振つて投書下さい。